

基本目標

第6 都市機能が充実したまち

〔展開方針〕

- 1 魅力ある市街地の形成
- 2 空港を核としたまちづくりの推進
- 3 道路体系の整備
- 4 公共交通の充実
- 5 緑地の保全及び緑化の推進

現状と課題

- 千歳市は豊かな自然に恵まれ、空・陸交通の要衝として発展しており、それに伴う人口増加に合わせた計画的な市街地の整備を進めてきましたが、少子高齢・人口減少社会の到来、産業構造の転換などによる社会経済構造の変化、地球温暖化などの環境問題の広まり、市民参加によるまちづくりの推進など都市を取り巻く状況は大きく変化しています。このような中、既成市街地においては未利用地が存在することから、今後は拡大型の市街地整備から住環境の質を高めていく成熟型の都市づくりに転換していく必要があります。このため、都市計画に関する将来ビジョンを再構築し、土地利用方針や諸施設の計画等を定める必要があります。
- 千歳市は国内外から多くの人々が訪れる都市であり、国際交流都市としての役割が大きく求められています。このため、恵まれた自然や地域特性を十分に生かし魅力的な都市景観形成に取り組む必要があります。
- 中心市街地は、行政、文化、商業サービスなどの施設が集積し、市民が生活、活動、交流する「まちの顔」ですが、移動手段の変化や郊外への宅地開発などにより、都市機能が分散しています。このため、都市としての再生、機能強化、にぎわいづくりなどに努める必要があります。

基本方向

- 長期的な視野に立ち、計画的な土地利用と魅力ある市街地の形成を推進するとともに、社会経済状況の変化に対応するため、既存の施設や土地などの有効活用や市街地の拡大抑制などにより、成熟した都市型社会の形成を図ります。
- 住環境の質的な向上を図るため、土地の有効利用や未利用地の活用を基本とした良質な宅地造成への適切な指導に努めます。
- 千歳市の特性を生かし、「千歳らしい」都市環境の保全と良好な地域イメージの構築を図るため、市民協働による地域ごとの魅力ある都市景観の形成を推進します。
- 都市機能などの集積と快適で安全かつ景観に配慮した都市空間の形成を図るとともに、未利用地の有効活用などを促進し、中心市街地としてのにぎわいを再生します。

施策体系

1 魅力ある市街地の形成

- (1) 成熟した市街地の形成
- (2) 総合的な都市景観の形成
- (3) 中心市街地のにぎわい再生

施 策

(1) 成熟した市街地の形成

目指すこと

安全で快適な都市生活の営みを安定したものとする地域社会を目指し、市街地の拡大抑制や既存の施設や土地などの有効活用などにより、コンパクトで成熟した市街地形成を推進します。

取組の方向

- 都市計画に関する基本方針である「都市計画マスタープラン」の再構築を行い、コンパクトで成熟した市街地形成を推進します。
- 既存の施設や土地などの有効利用を推進します。
- 開発許可制度や土地区画整理事業による宅地造成について、良質な宅地供給が行われるよう適切な指導に努めます。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
土地利用件数	市内の建築物に係る建築確認申請（第1号から第4号まで）の件数	H21 572 件	→	→

(2) 総合的な都市景観の形成

目指すこと

美しく快適なまちなみづくりに取り組み、愛着と誇りを持てる千歳らしい都市景観の形成を推進します。

取組の方向

- 人材育成や市民活動の支援を行い、市民協働による千歳市の特性を生かした景観づくりを推進します。
- 景観形成に関する啓発や各種情報提供の充実を図ります。
- 景観に影響を与える一定規模を超える建築物等の建設に際して、適切な指導に努めます。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
まちの景観が向上していると思う市民の割合	市民アンケートで「市街地の整備やまちの景観の向上」に満足・やや満足と回答した人の割合	H20 12.5%	↗	↗

(3) 中心市街地のにぎわい再生

目指すこと

都市機能の向上と快適性・利便性に優れた歩行者空間、憩いの空間の形成を推進し、市民や観光客などが集まる中心市街地のにぎわい再生を進めます。

取組の方向

- 中心市街地の未利用地の有効活用を促進し、都市機能の集積を誘導します。
- 都市景観の向上と安全性、快適性、利便性に優れた歩行者空間を創出するために、主要な道路においてバリアフリー※に配慮した歩道の整備などを進めます。
- グリーンベルトの再整備を推進するなど、市民が憩い集う開放的な空間を創出します。
- 中心市街地のにぎわい再生に向けた事業者等の取組を支援します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値		H27 目標値	H32 目標値
中心市街地の歩行者通行量	中心市街地地区にある8通り商店街の33調査地点における日曜日9時から21時の間の歩行者通行量	H20	28,912人	↗	↗



電線類地中化整備が行われた駅大通(国道337号)



JR千歳駅とバスセンターを備えた商業施設

用語解説

バリアフリー……障がい者や高齢者などが社会生活を送る上で支障となる物理的、精神的な障壁（バリア）を取り除いたり、軽減すること。

2 空港を核としたまちづくりの推進

現状と課題

- 新千歳空港においては、北海道経済の活性化や国内外との交流のために、北海道が中心となり、これまで貨物定期便の誘致に取り組んできましたが、現在、交通ネットワークの形成を更に推進するために、旅客定期便の開設・拡充や深夜・早朝発着枠の拡大に向けた取組など、「国際拠点空港化」が進められています。
- 空港政策の重点が「整備」から「運営」へシフトしている中、利用者の利便性向上に向けた空港機能の高質化とともに、空港から目的地までの移動手段の多様性・定時性などの確保が重要であり、人と物との交流の円滑化などを充実させる取組が求められています。
- 国管理空港である新千歳空港は、平成6年（1994年）から国内初の24時間空港として運用を開始しており、現在3,000m滑走路2本と国内旅客ターミナルビル及び国際旅客ターミナルビルを有する国内航空路線網の基幹空港として整備が進められています。今後、航空機の安定運航の確保などを図るために3,500mへの滑走路延長及び第2旅客ターミナルビルを含む国の基本計画の早期完了が課題となっています。
- 空港周辺地域においては空港機能を最大限に活用し、美々プロジェクト、千歳オフィス・アルカディアなどの各種プロジェクトが推進され、国際的視野に立った流通・物流機能や研究開発機能、先端技術産業などの集積拠点の形成に向けた基盤整備を進めてきました。今後、更に新千歳空港の国際拠点空港化を進めるためには、空港機能を支援する航空関連産業の集積や物流拠点の整備等を促進していく必要があります。

基本方向

- 新千歳空港に就航する航空機の一層の安定運航と国際拠点空港化の実現を目指し、滑走路の延長など国際空港としての機能の充実を国に求めるほか、関係団体と連携し国内定期航空路線の維持・拡充や国際定期航空路線の開設・拡充に努めます。
- 空港の利便性向上のため、関係団体と連携し空港機能の向上を促進します。
- 新千歳空港の国際空港機能の拡充に合わせ、周辺地域においてこれを補完・拡充する空港支援機能の整備や交通アクセスの利便性を生かした空港機能活用拠点の形成等を関係団体と連携し促進します。

施策体系

2 空港を核としたまちづくりの推進

- (1) 新千歳空港の機能充実の促進
- (2) 新千歳空港を核とした地域活性化

施策

(1) 新千歳空港の機能充実の促進

目指すこと

国際拠点空港化を目指し、関係団体と連携して国内外定期航空路線の維持・拡充を進めるとともに、空港機能の充実を促進します。

取組の方向

- ・関係団体と連携し、国内外の路線の維持・拡充などを進めます。
- ・空港法に基づく利用者の利便性向上に向けた取組を促進します。
- ・環境対策及び周辺対策等を着実に実施するなど、新千歳空港の機能強化を促進します。
- ・長距離国際定期便が冬季間においても定時性が確保され、安定的に運航できるよう 3,500 m への滑走路の延長とともに、空港機能の高質化を促進します。
- ・現国内線ターミナルビルに隣接する第2旅客ターミナルビルの整備など、国の基本計画の早期完了を目指します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値		H27 目標値	H32 目標値
航空路線数	新千歳空港に就航する国内・国際定期路線数	H21	37 路線	↗	↗
航空乗降客数	新千歳空港において旅客航空機を利用する延べ乗降客数	H21	16,537 千人	↗	↗

(2) 新千歳空港を核とした地域活性化

目指すこと

空港機能を活用し様々な交流を進めるとともに、空港関連施設産業の集積を図り、地域経済の活性化を推進します。

取組の方向

- ・関係団体と連携し、市民が空港と共に発展してきた歴史や空港を核としたまちづくりへの理解を深める取組を進めます。
- ・空港機能の充実・活用を図る施設の集積や産業拠点の形成を促進します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値		H27 目標値	H32 目標値
空港貨物取扱量	新千歳空港における貨物の取扱量	H21	224,009t	↗	↗

3

道路体系の整備

現状と課題

- 千歳市は、新千歳空港を核として鉄道、道路が機能的に連結し、北海道や国の内外を結ぶ交通拠点都市として発展を続けています。今後も、北海道における産業、経済、文化の交流や国際間競争、地域間競争といった観点から、新千歳空港と道内主要都市を結ぶ交通結節機能を更に高めていくことが求められており、高速道路をはじめとする広域的な道路ネットワークの整備が必要となっています。
- 人口減少社会の到来や産業構造の転換等により将来交通量の減少が予測される一方、急速な高齢社会の進展や障がいを持つ人の社会参加機会の確保を図るため、移動経路の円滑化や快適な歩行空間の整備などが求められており、こうした社会環境の変化に的確に対応した道路づくりを進めていく必要があります。
- 市内の道路延長が増えることに伴い、今後、老朽化により改修が必要となる道路延長も増加します。このため、安定した市民生活の確保や防災などの面から道路の安全性や信頼性の確保に努めるとともに、将来に維持管理費用が過大な負担とならないよう計画的に施設の改修などを行っていく必要があります。

基本方向

- 道内の主要都市を結ぶ高速交通ネットワークや道央圏における地域ネットワークを構築するとともに、観光振興や市内通過交通の混雑緩和、さらには災害に強い道路ネットワークの形成を図るため、広域道路網の整備を促進します。
- 周辺環境や将来交通量に基づく都市計画道路等の見直しを行い、交通実態に即した道路交通網の整備を進めるとともに、より多くの人々が安全で移動しやすいゆとりある道路環境の整備を推進します。
- 市民生活を支える上で重要な都市基盤である道路を、常に安全で信頼できる状態に保ち続けるため、適切な維持管理と施設の長寿命化、計画的な改修・更新に努めます。

施策体系

3 道路体系の整備

- (1) 広域道路網の整備促進
- (2) 安全で快適な市道の整備

施策

(1) 広域道路網の整備促進

目指すこと

北海道の産業、経済、文化の交流と国際競争力、地域間競争力の強化を図るとともに、安全で円滑な都市交通を確保するため、広域道路網の整備を促進します。

取組の方向

- 北海道横断自動車道、北海道縦貫自動車道、道央圏連絡道路、国道、道道の整備を促進します。
- 新千歳空港の利便性向上と機能拡充を推進する新千歳空港インターチェンジの整備を促進します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
北海道横断自動車道供用率	千歳－釧路間区間距離に対する供用率	H21 61%	↗	↗
道央圏連絡道路供用率	新千歳空港－石狩湾新港間の総延長に対する供用率	H21 46%	↗	↗
道道泉沢新千歳空港線供用率	道道新千歳空港線－道道支笏湖公園線区間距離に対する供用率	H21 74%	↗	↗

(2) 安全で快適な市道の整備

目指すこと

安定した市民生活の確保と地域産業の発展に資するとともに、より多くの人々が移動しやすいゆとりある道路環境の整備を図るため、安全で快適な市道の整備を推進します。

取組の方向

- 将来交通量などに基づく都市計画道路等の見直しに取り組むとともに、現状の交通量を考慮した効果的な道路整備を推進します。
- 安全でバリアフリー^{*}や景観等の視点に立ったやさしい道路づくりを推進します。
- 老朽化の進む生活道路の改良整備を推進します。
- 橋梁の長寿命化計画を策定し計画的な修繕、改修、更新に取り組み、安全で信頼できる橋の確保に努めます。
- 道路交通の安全確保を図るため、適切な維持管理を推進します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
幹線道路整備延長	幹線道路の整備延長（累計）	H21 81km	85km	86km
生活道路改良延長	生活道路の改良延長（累計）	H21 69km	87km	105km

用語解説

バリアフリー……………障がい者や高齢者などが社会生活を送る上で支障となる物理的、精神的な障壁（バリア）を取り除いたり、軽減すること。

4 公共交通の充実

現状と課題

- 低炭素社会^{*}や高齢社会に向けた対応として、バスや鉄道といった公共交通に対する社会的期待や依存度が高まっています。
- 高齢者や学生をはじめ市民の身近な公共交通機関であるバスは、自家用車の普及や道路網の整備などにより利用者が減少し、バス事業者の経営が厳しい状況にあり、路線の廃止が懸念されています。
- 千歳市においてもバス路線の廃止は、交通弱者の移動手段が奪われるなど、社会生活に与える影響が大変大きいことから、バス路線網の安定的な確保や充実が求められています。また、住宅地の広がりに伴い、市内の拠点的な施設や地域を結ぶバス路線網の充実が求められています。
- 鉄道は道内の主要な交通幹線であり、千歳市内には産業・経済活動の動脈でもあるＪＲ千歳線とＪＲ石勝線が整備され、札幌・苫小牧・道東方面に連絡する結節点として、さらには新千歳空港へのアクセス手段として重要な機能を果たしています。
- バスと鉄道は地域における交通輸送の基盤であり、今後、各交通機関の特性を生かした相互の連携により、一層の利便性向上が望まれています。

基本方向

- 地域の実情に応じたバス路線とＪＲ千歳駅を拠点とした交通ネットワークを充実させることにより、より快適で利用しやすく環境への負荷^{*}の少ない市民に親しまれるバス交通の実現を図ります。
- 都市間の輸送機関として重要な役割を果たしている鉄道輸送の利便性の向上を図ります。

施策体系

4 公共交通の充実

(1) 公共交通の機能の充実

施策

(1) 公共交通の機能の充実

目指すこと

バス交通などの利便性向上や利用促進策により、公共交通の機能の充実を図ります。

取組の方向

- ・地域の実情に応じたバス路線の安定確保と地域交通の充実を促進します。
- ・環境への負荷※の少ない安全・快適なバス交通の利用を促進します。
- ・道内の主要都市や観光地・産業拠点などを結ぶ交通ネットワークの維持と充実に努めます。
- ・関係団体と連携し、JR千歳駅周辺の利便性の向上に努めます。

施策成果指標

指標名	指標の内容		現状値	H27 目標値	H32 目標値
バス利用者数	市内路線バスの延べ利用者数	H21	1,393 千人	1,470 千人	1,500 千人
循環バス利用者数	循環バス（ビーバス）の延べ利用者数	H21	116 千人	120 千人	125 千人
バスの利用しやすさに対する満足割合	市民アンケートで「バスの利用しやすさ」に満足・やや満足と回答した人の割合	H20	11.3 %	↗	↗



千歳駅バスターミナル



市内循環バス「ビーバス」

用語解説

低炭素社会……………地球温暖化の主要な要因である二酸化炭素の排出量が少ない社会のこと。

環境への負荷……………人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となる恐れがあるものこと。

緑地の保全及び緑化の推進

現状と課題

- 千歳市では公園緑地の保全や整備など総合的に緑づくりを進めており、平成22年(2010年)4月1日現在、開設している都市公園は197か所、面積411.8haで、市民一人当たりの面積は44㎡となっています。
- 支笏湖周辺では国有林が広範囲に分布し、豊かな緑と良好な自然環境に恵まれている反面、都市化の進展に伴い市街地やその周辺の緑地の保全が求められています。
- 青葉公園をはじめ、市中心部を南北に貫くグリーンベルト、指宿公園、空港公園など様々な公園緑地の整備を実施しており、今後も市民ニーズを把握しだれもが利用し楽しめる公園緑地の整備を進めることが必要です。また既存公園は、維持管理体制の充実や適切な施設の更新等により安全で安心な公園整備を進めていくことが求められています。
- 花や緑であふれる美しい都市づくりが求められており、住宅地、商業地の店先、職場の身近な生活空間等においては、市民、事業者が自発的に植樹や花づくりに取り組むことが大切です。また、将来にわたり緑あふれるまちなみをつくるためには、担い手となる子どもたちが緑に関心を持つことが大切です。このため、市民が緑と親しみ、ふれあう機会の確保に努めていく必要があります。

基本方向

- 市街地の水辺・樹林・緑地などの保全に努めながら、市民の潤い・安らぎの場としての活用・整備を進めます。
- 都市の拠点的な公園を確保するとともに、計画的な公園整備を進めます。
- 子どもや高齢者に使いやすく安全に利用できるよう、バリアフリー化^{*}やユニバーサルデザイン^{*}を取り入れた親しみのある身近な公園緑地づくりを進めるとともに、適切な改修を行い安全で安心な公園利用を促進します。
- 公園、街路樹や河川など、適切な維持管理で美しさが保たれる緑については、住民や企業の積極的な参加を促し、整備、管理する側と利活用する側の協働で緑づくりに取り組みます。
- 都市の緑は、利用されてその恵みが享受できることから、緑を学び、理解し、緑にかかわる活動の促進に取り組みます。

施策体系

5 緑地の保全及び緑化の推進

- (1) 公園緑地の保全と整備
- (2) 参加と協働による緑化の推進

施策

(1) 公園緑地の保全と整備

目指すこと

良好な都市環境を維持するとともに、地域住民の生活環境の向上やより多くの人に安全で安心な公園利用を提供するため、計画的な公園緑地の保全と整備に努めます。

取組の方向

- 市街地や周辺の水辺・樹林・緑地を保全・整備することにより、良好な都市環境の形成を図ります。
- 市民ニーズを的確に把握し、計画的な公園緑地の整備に取り組みます。
- 整備から相当の年数が経過し施設の老朽化が著しい公園について、施設の更新又は再整備を行います。
- 子どもや高齢者、障がいのある人などが快適に利用できるよう、公園施設のバリアフリー化^{*}やユニバーサルデザイン^{*}の配慮を行います。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
開設済公園緑地面積	開設告示を行った公園緑地の合計面積	H21 411.9ha	420ha	430ha
多目的トイレ設置率	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(バリアフリー新法)に基づく多目的トイレの整備割合	H21 19.5%	23%	25%

(2) 参加と協働による緑化の推進

目指すこと

花と緑あふれるまちなみを創出するとともに、公園緑地の良好な管理を行うため、参加と協働による緑化の推進に努めます。

取組の方向

- 市民参加によって緑化や花壇づくりを進め、まちの景観の向上を図ります。
- 市民が緑と親しむ機会を増やし緑化思想の普及啓発、人材育成、情報提供などを行います。
- 市民協働による公園緑地の維持管理を推進します。

施策成果指標

指標名	指標の内容	現状値	H27 目標値	H32 目標値
花いっぱいコンクール参加件数	花いっぱいコンクールに参加した団体、個人、企業等の件数	H21 194 件	250 件	250 件
緑化振興事業参加者数	緑化振興事業の延べ参加者数 (花いっぱいコンクールは除く。)	H21 6,960 人	9,000 人	9,500 人
町内会が維持管理する公園数	町内会が維持管理を行っている公園の数	H21 135 か所	143 か所	146 か所

用語解説

バリアフリー化……………障がい者や高齢者などが社会生活を送る上で支障となる物理的、精神的な障壁（バリア）を取り除いたり、軽減すること。

ユニバーサルデザイン……………心身に障がいのある人、高齢者、子ども、健常者の区別なく、誰でも使いやすいように設計（デザイン）された製品や空間のこと。